

京都工芸繊維大学 教授着任講演会

新たに教授に着任した教員が、自身の研究内容及びビジョンを紹介します



日時 令和8年7月8日(水) 13:00～(12:30 開場)
7月15日(水) 10:00～(9:30 開場)

会場 京都工芸繊維大学(松ヶ崎キャンパス) 60周年記念館記念ホール

内容 2ページ目以降をご覧ください。

後日オンデマンド動画配信あり

対象 本学学生・本学教職員・産学連携協力会会員企業・京都クオリアフォーラム会員企業

申込方法 下記URLもしくはQRコードよりお申し込みください。
<https://www.kit.ac.jp/application/view/index.php?id=654225>

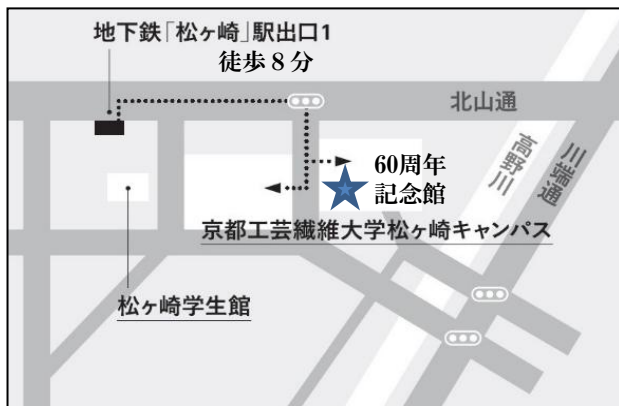


申込期限

7月8日(水) 開催分：7月6日(月)

7月15日(水) 開催分：7月13日(月)

アクセス



キャンパスマップ



問合せ

京都工芸繊維大学 研究推進・産学連携課総務係

〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町1番地

TEL: 075-724-7209 E-mail: ken-senryaku@jim.kit.ac.jp

講演会詳細はWEBでもご確認いただけます！https://research.web.kit.ac.jp/令和8年度_教授着任講演会/



主催：京都工芸繊維大学 研究戦略推進委員会

京都工芸繊維大学 教授着任講演会

※参加者による講演会の静止画/動画撮影や録画、録音、コンテンツの加工・改変・二次配布等はお遠慮ください。

令和8年7月8日(水)

60周年記念館

第一部

13:05~

13:40

デザイン・建築学系 赤井 愛 教授

『当事者参加型プロダクトデザインの実践—課題発見から社会実装まで』

当事者および専門家との協働による課題の発見と造形、それらの評価を軸としたデザインプロセスが、これまでにないプロダクト創出につながることを見出ししてきた。盲導犬用ハーネスや航空機内食テーブルウェア等の設計・評価を事例に、当事者との対話により既存の前提を問い直す試みを報告する。



第二部

13:45~

14:20

デザイン・建築学系 井戸 美里 教授

『「工芸」の未来—京都高等工芸学校時代の図案課に学ぶこと—』

「工芸」とは何だったのか。そして今、日本の「工芸」はどこに向かっているのか。本講演では、「工芸」の多様性について本学設立当初の理念や実践をとおして検証する。当時の京都に求められた新たな建築空間とそのための室内装飾について、とくに染織業界とのかかわりから捉え直すことによって現代を逆照射してみたい。



第三部

14:25~

15:00

デザイン・建築学系 大田 省一 教授

『ベトナム近代建築の成立』

ベトナムは、東アジアの伝統王朝、フランスによる植民地支配、南北分断を経て現在に至る。その間、諸外国から様々な影響を受けつつ、近代建築を創造してきた。ここでは、19世紀末から1976年の統一に至るまでの建築の変化を、時代ごとの特徴を踏まえて概観し、建築と社会、国際情勢との関係を考察する。



第四部

15:05~

15:40

電気電子工学系 新谷 道広 教授

『情報と電気の接点：次世代集積システム基盤の探索』

情報学で学位を取得し現在電気系に身を置く、AIデータセンターに代表される「情報と電気の融合」という時代の要請と重なる。本講演では、この接点を支える高信頼回路設計技術を振り返り、次世代集積システム基盤について展望する。



第五部

15:45~

16:20

繊維学系 岡久 陽子 教授

『機械解織によるシルクナノファイバーの創製と今後の応用可能性』

機械解織により植物繊維からセルロースナノファイバーが得られるが、本研究では同手法をシルク繊維に適用し、ナノファイバー化に成功した。得られた材料の特性解析から興味深い性質が明らかとなり、現在はその理解を深めつつ応用展開の可能性を探っている。



京都工芸繊維大学 教授着任講演会

※参加者による講演会の静止画/動画撮影や録画、録音、コンテンツの加工・改変・二次配布等をご遠慮ください。

令和8年7月15日(水) 60周年記念館

10:05~
10:40 材料化学系 野々口 斐之 教授

『有機熱電変換とカーボンナノチューブ』

有機熱電変換を出発点に、カーボンナノチューブ（CNT）という細くて黒くて少し扱いにくい材料に向き合ってきました。本講演では、分子集合と界面設計を手がかりに、研究のこれまでを振り返り、これから切り拓きたい材料化学の方向性を展望します。



10:45~
11:20 機械工学系 梅館 拓也 教授

『柔軟材料が生む知能：生物模倣ソフトロボティクスの新展開』

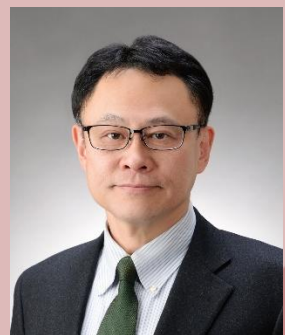
イモムシや粘菌は柔らかい身体を駆使して複雑な環境をしぶとく這い回る。本講演ではこれらの生物からヒントを得て、タスク指向の柔軟ボディ設計、自律分散制御、機構系プログラミングという3つのアプローチから、生物を越えるロボットの実現に挑む我々の研究を紹介する。併せて、京都工芸繊維大学での今後の研究展望についても述べる。



11:25~
12:00 産学公連携推進センター 高田 隆裕 教授

『産学公連携と実践知を活かした博士学生キャリア形成支援』

企業での研究・開発・企画・マネジメント等で培った実践知とキャリア理論を活かした博士学生のキャリア形成支援を紹介する。産学公連携や社会との接続を意識したトランスファラブルスキルの醸成、研究生活を通じた自律的成長、対話を軸としたメンタリングの3つの側面から、高度専門人材育成の在り方を考える。



第一部

第二部

第三部